

# 島のむんがたり

世界自然遺産の島  
進化は続く

梅雨入り間近の5月、徳之島では夜になるとカエルの合唱を聞く機会も増えているのではないのでしょうか。奄美群島では、アマミアオガエルやアマミハナサキガエルなど、9種類のカエルが確認されています。

アオガエルは田んぼや池のみならず水溜りがあれば産卵できるため、人里の近くで見ることができます。一方、アマミハナサキガエルとイシカワガエル、オットンガエルは水量のある川辺を産卵場所としているので、山間部にある川沿いの林道などで観察されます。

「日本一美しい」と称されるイシカワガエルと奄美で一番大きい



林道に現れたアマミハナサキガエル

オットンガエルは奄美大島のみで見られ、徳之島には生息していません。奄美を代表する2種のカエルがいないのは残念ですが、これがカエルの生態に影響を与えているのではないかと考えられています。

徳之島にいるアマミハナサキガエルは、前述の2種のライバルがいらないことでより多くのエサを確保できるため、奄美大島のものより大きいとのこと。奄美群島最大級のカエルになることも夢ではないかも知れません。(何千年も先の想像という点はご了承ください。)

このような想像を夢で終わらせないためにできることがあります。徳之島が世界自然遺産に登録された要因の一つは、自然と人の共生関係が保たれていること。ゴミをポイ捨てしない、ペットの適正な飼育など、自然環境に負荷をかけない暮らしを営んでいくことが、我々にとっても暮らしやすい環境を守ることにつながると思います。

(郷土資料館長 遠藤 智)

問 郷土資料館

☎ 0997-82-2908